水土里ネットちば

Chiba Prefectural Federation of Land Improvement Association

第１５回　写真コンテスト佳作「黎明の輝き」

2009
AUTUMN
No.285

CONTENTS

口絵「成田新高速鉄道と印旛沼」
農業土地改良議員連盟の現地研修会　森田知事が印旛沼二期地区を視察・・・・・・1
2009秋の叙勲　受賞者の発表！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
指導を仰ぎ職務に精励・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
旭市万力Ⅱ期地区における新たな地域複合営農への取り組み・・・・・・・・・・・4
県営かんがい排水事業 山内地区　経営体育成基盤整備事業 埴生川　期地区・・・・・6
第32回 全国土地改良大会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
第15回 美しい農村環境写真コンテスト　表彰式・作品評・・・・・・・・・・・・・9
「水の週間」中学生 水の作文コンクール入賞作品・・・・・・・・・・・・・・・・13
図書斡旋のお知らせ　平成２２年度 千葉県農業大学校の学生募集「一般入試」

成田新高速鉄道と印旛沼

成田新高速鉄道線は、京成高砂から成田空港間約51.4ｋｍの路線で、整備されると都心と成田空港が30分台で結ばれることとなります。

成田新高速鉄道線のうち、京成高砂から印旛日本医大駅間は既営業路線の北総線で、印旛日本医大駅から成田空港間が新線建設区間です。

印旛日本医大駅から成田市土屋地先間は全くの新規区間であり、成田市土屋地先から成田空港間は既存の成田空港高速鉄道線の施設に単線軌道等を敷設する計画で平成22年度開業予定です。また、成田新高速鉄道線と併設して北千葉道路が一体的に整備されます。

印旛沼は、北印旛沼（北部調整池）と西印旛沼（西部調整池）の間の長さ3.8ｋｍの印旛沼捷排水路で結ばれ、各所に設けられた揚排水施設により沼の水位を調節し、沼周辺を洪水から守ると共に、農業用水を確保し、上水・工業用水を供給しています。

また、印旛沼周辺には7000haもの水田が広がり、低平地では大区画水田と省力技術により大規模営農が行われています。

成田新高速鉄道線は印旛捷水路を横断し、甚兵衛大橋南側の北印旛沼を横断、甚兵衛機場脇を抜け、県営ほ場整備公津地区内を通過します。これにより、周辺の農業用用排水路等の移設が必要となり、現在その整備も進められています。

印旛農林振興センター基盤整備部

農業土地改良議員連盟の現地研修会

～森田知事が印旛沼二期地区を視察～

農業土地改良議員連盟事務局

さる１１月９日に森田知事参加のもと農業土地改良議員連盟の現地研修会が行われました。酒井会長を始めとする１１名の県議会議員や土地改良事業団体連合会の菅谷会長、依田農林水産部長などに参加いただきました。

始めに印旛沼土地改良施設の現状を見るために、宗吾機場、白山機場の２箇所を訪れ、老朽化した施設の説明を受けました。

知事からは「農家の人が踏ん張って食料事情を支えているということを決して忘れてはいけない。施設を見たら今何かあってもおかしくない状態であり、何とかしなければいけない。一致団結しながら一生懸命やらせていただきます。」との発言がありました。

白山機場で説明を受ける森田知事（中央）

その後、旭市の経営体育成基盤整備事業富浦地区の視察を行い、農事組合法人「米工房富浦」の取組、ブロッコリー栽培などについて説明を受けました。

また、農地の汎用化に不可欠である暗渠排水（ドレンレイヤー）の施工状況を視察しました。

同じく、万力 期地区では、地区内に点在していたハウスが事業により集積されたハウス団地を視察しました。

ハウスでは水耕栽培によるトマトの生産が行われており、議員と生産者との間で病害虫などについて熱心な意見交換が行われました。

2009 秋の叙勲 受賞者の発表！

秋の叙勲・褒章の受章者が発表され、様々な分野で功績を残された方々が表彰の栄に浴されました。

土地改良関係では、永年にわたり東葛北部土地改良区の理事長の要職を務め、地域農業の発展にご尽力されたことが認められ、寺田鼎氏が旭日双光章を受賞されました。寺田氏のご功績に対し、改めて感謝の意を表しますとともに、今後ともますますご健勝でご活躍されますことをお祈り申し上げます。

叙勲受章者の紹介

寺田 鼎 氏

【旭日双光章】

寺田氏は、昭和58年度から実施した県営ほ場整備事業において船形工区長として活躍され、昭和62年6月から東葛北部土地改良区の理事となり、その後も関係機関との協議に積極的に参加し事業の円滑な推進に努力したことが認められ、平成8年9月からは理事長に就任されました。その後も永年にわたり、従来の土地改良区の事業だけでなく、農地はもとより豊かな農村環境を守ることにも取り組むこととなり、その後、平成19年度から始まった農地・水・環境保全向上対策においても地域住民と一丸となって、資源の良好な保全や環境の向上を図る政策にも地域の拠点として土地改良区が積極的に参加するなど、土地改良区の運営に対する新しい基礎づくりにも大きく貢献されました。

また、野田市議会議員、野田市農業振興審議会委員、野田市消防団、野田市農業委員、東葛北部営農組合組合長など、あらゆる方面から地域のため、そして地域農業の発展のためご尽力されました。現在もちば県北農業協同組合監事として活躍されております。

今回の受章は、こうした永年の功績が認められたものです。

〈主な表彰歴〉

平成１０年２月２４日	東葛地域土地改良協会表彰（土地改良功労）
平成１１年３月１９日	千葉県知事表彰（消防功労）
平成１２年３月２４日	千葉県土地改良事業団体連合会長表彰（土地改良功労）
平成１６年１１月３日	千葉県知事表彰（農林功労）

千葉県の発展に多大な貢献をされた方に対し表彰があり、次の方々が「農林水産功労」として表彰されましたので紹介いたします。（敬称略）

【平成２１年文化の日千葉県功労者表彰】

金子正雄	元　香北土地改良区理事長
小畠　守	元　東条土地改良区理事長
近藤富男	元　小櫃堰土地改良区理事長、現 小櫃堰土地改良区理事
布施　保	現　借当川沿岸土地改良区理事長

指導を仰ぎ職務に精励

小糸川沿岸土地改良区

局長

森 英樹

小糸川沿岸土地改良区は、房総半島中央部東京湾に注ぐ、二級河川である小糸川（流路延長80km）、岩瀬川（同5.4km）及び準用河川である川名川の流域に広がる水田1,607haに農業用水を供給することを主たる業務とする土地改良区です。

水源は、小糸川源流域に県営事業として昭和43年度に築造され、千葉県が管理する三島ダム(貯水量540万)を主とし、３本の幹線水路により農業用水を供給するほか、海岸地域は揚水機２基により小糸川河口部から取水をしております。また、慢性的な水不足に対応するため、大小さまざまな数十基の揚水機も運転しております。

当土地改良区の事務全てを処理する職員は、常勤職員８名で行っておりますが、永年勤続の職員が相ついで定年を迎え退職したことにより、急激な職員の新陳代謝が発生しました。この度はからずも平成20年度局長を拝命いたしました森英樹と申します。もとより浅学非才の身であり責任の重さ痛感しておりますが、千葉県を始め土地改良関係機関の皆様のご指導を仰ぎながら、精一杯職務に精励する覚悟でございますので、よろしくお願いいたします。

さて、当土地改良区では、農業用水の安定供給のため、県営かんがい排水事業小糸川地区を基幹事業として、老朽化した幹線用水路を改修するため、全線の管路化工事を実施して戴いておりますが、長引く景気低迷から財政状況極めて厳しく、平成11年度に着工以来10年が経過しましたが、現在約50％の進捗率となっており、竣工年次の大幅な延長を余儀なくされる状況にあります。更に土地改良施設維持管理適正化事業やストックマネジメント事業などの補助対象事業の活用により組合員の負担軽減を図りながら、農業用施設の維持管理を進め、管内の水田に安定した用水の供給が出来るよう努力しております。土地改良区の事務運営については、平成20年度から農業用排水路、揚水機、農道及びため池など農業用施設の管理区分を明確化するとともに、助成制度を拡充いたしました。反面、組合員の負担については、農業諸資材の急激な高騰などに配慮し、常勤役員の廃止など経費の縮減に努め、平成20、21年度連続して賦課金の減額を実現することができました。

今後も組合員の理解を得ながら、地域農業の活性化のため、農業施設の維持管理に微力を尽くしてまいります。

最後に、千葉県土地改良事業団体連合会の益々の発展と、水土里ネット関係各位及び関係機関の方々に重ねて、ご指導ご鞭撻をお願いいたします。

旭市万力Ⅱ期地区における新た

はじめに

旭市西部に位置する干潟八万石と呼ばれる水田地帯は、『椿の海』という大きな湖であったのを江戸時代に干拓してから今日まで、その状況を残す狭隘な『琴田』と言われる縦に細長い水田となっています。（左下写真参照）

区域の中には道路、用水路、排水路がほとんどないため生産性が低く、さらに近年、農業従事者の高齢化による労働力不足も懸念されていました。

また、この地域は冬春トマト・きゅうりの指定産地であり、地域の専業農家は稲作と施設園芸の複合経営の形態が多く、地域農業の発展に貢献してきました。

しかし、未整備の水田とハウス畑が混在し、しかも農道の整備不足等により農作業効率が悪いという、地域特有の課題を抱えてきました。

このような中で平成１９年に経営体育成基盤整備事業の採択を受け、新たな担い手育成と農業構造の変革を目指すことで地域の合意形成がなされました。さらに基盤整備と併せて、地域農業の基幹施設としてライスセンターとハウス団地の整備が経営構造対策事業によって進められています。

事業の概要

	【経営体育成基盤整備事業】	【経営構造対策事業】
○事業地域	旭市万力及び米込地先	旭市南万力地区
○総事業費	15億1,700万円（事務費を除く）	13億3,000万円
○負担割合	国50%　県35%　地元15%	国50%　事業実施主体（５法人）５０％
○工期	平成19年度から平成24年度	平成19年度から平成21年度
○関係土地改良区	千葉県干潟土地改良区	
○主要工事	区画整理工事　83ha（水田57ha、畑26ha）	乾燥調製貯蔵施設2棟（25ha、40ha対応）
	暗渠排水工　70ha	ハウス団地　18棟　計6.1ha

琴田の状況

計画平面図

な地域複合営農への取り組み

海匝農林振興センター

新たな地域複合経営を目指して

◆集落営農の拠点であるライスセンター

地区内東西２箇所にライスセンター用非農用地が設定され、集落の構成員からなる農業生産法人（認定農業者）の経営によるライスセンターの整備が進んでいます。

これによって、これまでの個人完結型の稲作生産から新たな機械施設による共同経営で作業の効率化、低コスト化を実現します。また、将来にわたる万力Ⅱ期地区の担い手法人として水田の利用集積を図り、地域稲作の安定的発展を目指します。

それとともに、法人運営で省力的な作業体制がとれることで、田植え時期や稲刈り時期の繁忙期に、稲作作業と法人構成員の施設野菜栽培との労力配分が効率的に改善され、施設野菜部門の経営改善にもつながります。

◆施設野菜産地旭市の新たなハウス団地の誕生

水田の整備とあわせ農地の高度利用のため、既存ハウスの移転とともに最新設備のハウス団地が地区の北側に整備されています。

新たに３つの農業生産法人が設立され、高度な栽培技術を確立するとともに積極的な生産販売を目指します。

千葉県を代表する施設野菜産地である本地域において、先進的経営体モデルとなることが期待されています。

法　人　名	主な栽培品目	栽培面積
（農）ベジワン旭	水耕ミニトマト・大玉トマト	27,552㎡
（農）新発田温室組合	ミニトマト	20,532㎡
（農）六軒家	冬春きゅうり	12,662㎡

集落営農の拠点となるライスセンター

水田の北側に広がる大規模ハウス団地

●県営かんがい排水事業：山内地区　●経営

県営かんがい排水事業「山内地区」と、経営体育成基盤整備事業「埴生川Ⅲ期地区」の竣工式が１０月２６日に行なわれました。

両地区は、千葉県中央部の長南町南東に位置し、古くから良質米が生産されてきた水田地帯ですが、確立した水源を持たないことから慢性的な用水不足を生じていたうえ、地形が複雑で区画が未整備なため、大型機械の導入等による農業の近代化が困難な状況でした。

このようなことから、県営かんがい排水事業により山内ダムを築造して水源を確保し、経営体育成基盤整備事業により農地の大区画化と汎用化を図り、大型機械の導入や農地の高度利用による農業経営の安定と近代化を目指すものです。

また、上流地域は変化のある豊かな自然環境を有し、ゲンジボタルをはじめ貴重な生物が生息していることから、地区内の２.５haは生態系保全型水田整備推進事業により生態系に配慮した工法を取り入れて整備を行ないました。

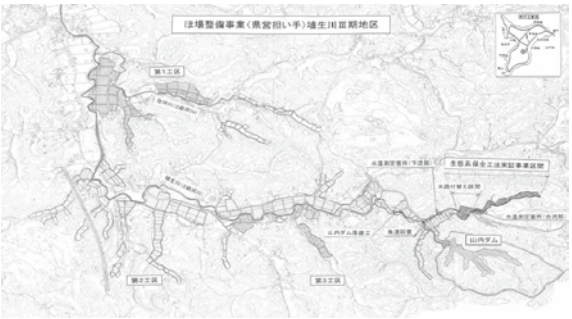
【県営かんがい排水事業 山内地区の概要】

- ●事業年度　平成９年度～平成１７年度
- ●総事業費　３２億3,７００万円（事務費を除く）
- ●事業内容
  - ・中心遮水ゾーン型フィルダム
    - 堤防高２１.６ｍ
    - 堤防長９９.８ｍ
    - 総貯水量３６万トン
  - ・取付水路５５９ｍ
  - ・取付道路2,１７０ｍ

【経営体育成基盤整備事業 埴生川Ⅲ期地区の概要】

- ●事業年度　平成９年度～平成２０年度
- ●総事業費　１８億８００万円（事務費を除く）
- ●事業内容
  - ・受益面積７８.４ha
    - （水田７３.３ha、畑５.１ha）
  - ・揚水機場１２箇所
  - ・用水路工２３.１km
  - ・排水路工１５.２km
  - ・道 路 工１８.２km

【山内ダム】



【埴生川Ⅲ期地区】

体育成基盤整備事業：埴生川Ⅲ期地区の完成

長生農林振興センター

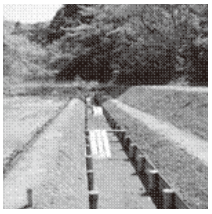
生態系に配慮した水田整備

今までの環境をできるだけ残すことを目的に専門家を交えて生物調査と工法検討を行い、魚類や水生生物が生息しやすいよう各種の環境保全型工法を実施しました。

この様な自然環境を保全していくことを目的に長南町生態系推進協議会が組織され、草刈や施設補修のほか自然環境学習会を開催するなど、活動を通じて自然環境への関心と理解を深めています。

また、毎年６月に開催される「ホタル鑑賞会」には多くの人が訪れ、幻想的な光に魅了されています。

〔木柵水路〕

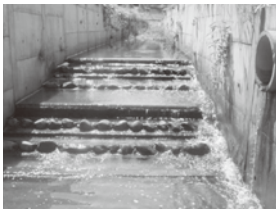


・底はドジョウ等に優しい土砂
・カエル等が移動可能なスロープ

〔ブロックマット護岸〕

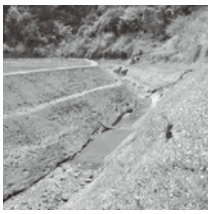
・カエル等が移動可能な台形断面
・湧水を護岸面からキャッチ

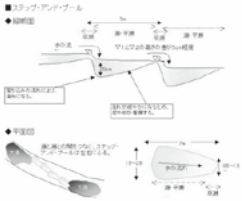
〔階段式魚道〕



・遡上可能な10cm程度の落差
・自然石を埋め込んだ堰

〔素掘り土水路〕





・ホタルの生息環境を確保
・幅と深さに変化を持たせたステップ&プール

〔台湾農田水利会訪日調査団〕

・H20.7.4　約20名が来日

竣工式

この事業を契機に組織された、農事組合法人「グリーンファーム長南西部」が集落営農への取り組みを始めており、地域農業活性化への貢献が期待されています。

長南町ひとくちメモ

長南という地名は、古くは上総国長柄郡が南北に細長く、その南半分を長南と呼んで区別した事によると言われています。

歴史を辿れば１０世紀に菅原道真の子、善知麿が長南に移り住み名前は地名をとって長南次郎と改めて長南氏が誕生、特産品としたのが紅花でした。

長南氏は５００年間この地で暮らしていましたが、戦国時代に武田氏との戦に敗れて山形や岩手に落ちのび、山形の紅花も房総から伝えられたと言われています。

長南町には四方懸造りの笠森観音堂（重要文化財）や、日本一長い勅号の長福寿寺、龍の彫刻では日本一とも言われる欄間（初代波の伊八作）のある称念寺など、歴史ある寺院が点在しています。

また町内には、全国名水百選の「熊野（ゆや）の清水」をはじめ、国天然記念物の笠森寺自然林、花菖蒲園など見所いっぱいですのでぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

笠森観音堂

称念寺の欄間

第32回　全国土地改良大会

『国引きのロマン、水･土･里の想い。神話の郷から今、未来へ。』を大会テーマに島根県で盛大に開催

水土里ネット千葉

第３２回全国土地改良大会が平成２１年１０月２７日・２８日・２９日の３日間にわたり、島根県において開催されました。

今大会は、「食料の安定供給」や「食の安全・安心」が大きな関心事となっている昨今、農業生産を支える農地や農業用水路などを維持・保全・整備する農業農村整備の重要性を広く国民にアピールするとともに、土地改良法制定６０年という節目の年に、今一度「水・土・里」の想いを再認識し、共生・循環・持続する国のかたちづくり、地域づくりについて語り合うことを目的に開催されました。

☒農村振興局長賞の清水理事長に代わって受賞の高橋課長（写真中央）

土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣表彰６名、農村振興局長表彰１６名、全土連会長表彰４７名が表彰を受け、長年にわたる功績が称えられました。本県からは、印旛沼土地改良区理事長の清水豊勝氏が農村振興局長表彰を、千葉県手賀沼土地改良区理事長の阿曽亮一氏が全土連会長表彰を受賞されました。

全土連会長賞の阿曽理事長　☒

さらに式典では、優良活動事例紹介、基調報告があり、大会宣言では、島根大学生物資源学部の学生２名により『健全な「水」「土」「里」を守ることにより、「食料」「水」「エネルギー」の資源供給を担うばかりでなく、「国土」を保全する重要な責務をも担う者として、国民の負託と信頼に一致団結して応えていく』と声たからかに宣言が行われました。

３日目の２９日には現地視察が行われ、農道整備事業「簸川西地区」、国営かんがい排水事業「斐伊川沿岸地区」を視察し終了しました。

最後になりましたが、本大会の運営にご尽力されました水土里ネット島根のスタッフの皆様、並びに県・地元関係者の皆様には大変お世話になりました。参加者一同心よりお礼申し上げます。

第15回 美しい農村環境写真コンテスト
審査会・表彰式の開催

水土里ネット千葉　管理指導部指導室

「誰もが住んでみたい美しい農村環境」をテーマに毎年実施しております写真コンテストも今回で第１５回となり、皆様のご協力によりお陰様で５２名の方から１０６点の作品の応募があり、７月２４日（金）にプロの写真家であります鍔山英次氏と情報誌「水土里ネットちば」の編集委員とともに審査会を開催し、最優秀賞（千葉県知事賞）の他、各賞を次頁のとおり決定いたしました。たくさんの応募をいただき心より厚くお礼申し上げます。

また、８月２０日（水）１３時３０分よりプラザ菜の花において、銅賞以上の入賞者の方を対象に表彰式を執り行いました。

作品の講評を鍔山氏にしていただきました

受賞者の皆様と鍔山氏（前列）

第１６回写真コンテストも開催しますので、たくさんの応募をお待ちしております。詳しくは、応募要領をご覧ください。

第15回 美しい農村環境写真コ

最優秀賞
千葉県知事賞

〈あそこに〉

撮影場所：我孫子市高野山　撮影者：亀谷宏

田植が終わったばかりの水田の片隅で、生き物を見つけた子供たちの興奮が画面から伝わってくる。子供たちの表情が水面にも映えていて、二重のインパクトで迫ってくる。的確なフレーム、シャッター・チャンスの選択と画調の美麗さが完成度を高めた秀作。農薬万能から生態系を見直すという時代の中で、昔ながらの生き物が蘇ってきた。作者のコメントにもあるように、子供たちがここで見つけた生き物は、大きな宝物となって大人になっても、自然環境の大切さを持ち続けて欲しい。

千葉県土連会長賞

〈興味津々〉

撮影場所：大網白里町　撮影者：上出善治

代掻きのトラクターが近くで大きな音を立てながら、自在に動き回るのを見守る母子。少年の無心に見入る後姿が写真のキーポイントとなっていて、訴追力のある画面に仕立て上げている。母は、この子が農業に関心を持ち、将来は後継者となって欲しい、と密かに期待を寄せているようだ。

特別賞
千葉県農村振興技術連盟賞

〈夕映えの佐久間ダム〉

撮影場所：鋸南町佐久間ダム　撮影者：菅原譲太郎

春爛漫、桜花が水利の要でもあるダムを囲むように咲き誇っている。陽は西に傾き東岸の桜を人工照明の光のように染めながら移動していく。作者は手前の桜に陽があたっている時刻から、この位置で光の推移を見守っていた。奥行感のある構図を完成度の高い作品に活写している。

特別賞
農地・水・環境保全向上対策賞

〈田植え終えて〉

撮影場所：山武市実門　撮影者：三浦務

田植えの作業を終えたファミリーが、土の汚れを洗っている場面のワンショット。作業の跡を振り返り、お互いの会話が弾む自然な表情が見事に描写されている。フレームの選択が巧妙でシャッターのタイミングも良く、光が全体を包み込み潤いのある雰囲気の表現も秀逸。

ン テ ス ト

（敬称略）

金賞

〈田んぼの“むつごろう”〉

撮影場所：君津市貞元　撮影者：河合芳男

田植え前の水田でどろんこ遊びに興じている子供たち。“むつごろう”のような姿態の描写は良好だが、子供たちの顔の表情が暗くて読みとり難いのが惜しい。プリントのコントラストを少し弱めたほうが良い。

銀賞

〈きれいになって〉

撮影場所：市原市深城　撮影者：関口英雄

大根の選別作業。両サイドに箱が並んでいる所をみると、ここから出荷されるのだろう。室内の光源の下で、ややグリーン色に染まっているが、露光値は程よく場内の雰囲気を描いている。断って撮影したと付記されている。どんな場面でも他人の肖像に配慮が必要です。

〈老いても頑張る〉

撮影場所：八街市　撮影者：齋藤光生

落花生畑でのボッチの積み上げ作業。腰を伸ばしながらお爺さんもお婆さんも仕事に精を出しているスナップ。構図が平面過ぎるので、少し右方から撮ると遠近感が描写されて、インパクトが強くなる。

銅賞

〈お田植祭を終えて〉

撮影場所：香取市香取神宮
撮影者：小栗山秀男

香取神宮での田植え式を終えて、鮮やかな衣装の一行が帰路につく。折しも杉木立の中に開花したヤマザクラが見送っているようだ。待ち構えていて、狙うツボを心得た作品となっている。

〈虫おくりびと〉

撮影場所：九十九里町
撮影者：山下一士

農薬の無い時代、“虫おくり”の祭事は日本列島の至る所で行われた。この地では45年ぶりに伝統行事として復活させた。風上からの描写が雰囲気を描くのに成功した。

〈刈り入れの頃〉

撮影場所：鴨川市北風原
撮影者：高野春男

房総は山々と谷が連なり、僅かに開けた棚田での刈り入れ。小さな田んぼも大切にしている。空の雲は初秋の季節感を漂わせ、右方の木立をフレームしたのが良い。

佳作

第15回 美しい農村環境写真コンテスト

（敬称略）

〈稲刈りの頃〉

撮影場所：香取市　撮影者：小阪欽哉

日本列島で夏に子育てを終えたアマサギ（渡り鳥）の群れが、稲刈りの落穂を拾って南帰のためのエネルギーを蓄えている。並列の構図の中に人影が巧妙に描写されている労作。

〈お手伝い〉

撮影場所：南房総市吉沢　撮影者：瀧口和男

稲刈りに三人の子女がお手伝い。作者には赤い手袋が印象的だった。わが身に引き換え、三人姉妹の賑やかさに思いを馳せる。自然な表情が巧みに描写されている。

〈初めての田植え〉

撮影場所：鴨川市釜沼　撮影者：菅原康世

泥に塗れながら田植えする幼児。なにか魅了すものが子供心を捉えたのだろう。田植えが進行する区切られた水面で一人、苗を無心に植えるフレミングが功を奏している。

〈菜の花と散るがいい〉

撮影場所：鴨川市　撮影者：川名舞

いかにも若者が発想したユニークな画面に思わず笑みが浮かぶ。もう少し上部空間を入れると印象として強くなる。自由な発想と演出で写真が変わる例として評価したい。

〈小戸の初午〉

撮影場所：白浜町小戸　撮影者：高橋武彦

南房総市小戸での、三年に一度の初午祭りで、衣装を纏った子供たちがリズムに合わせて踊っている。タイミングもアングルも巧に捉え、行事の記録・伝承を果たしている。

〈黎明の輝き〉

撮影場所：八街市文違　撮影者：牛込金次

昨夜来の激しかった風雨の爪跡を物語っている麦畑が、晴れ上がった早朝の光で輝いている。後方左は鎮守の森か…？自然現象のたたずまいが見事に活写されている。

〈ハナトラノオの咲く頃〉

撮影場所：鴨川市大山千枚田　撮影者：茅野一雄

大山千枚田の夏。盛夏を告げるハナトラノオが咲き誇っている。炎天下で人々は畦草取りの作業も。空は夏雲が流れ、実りの秋を迎えようとしている季節感の表現が良い。

〈初夏の千枚田〉

撮影場所：鴨川市　撮影者：山口翔

森と花と棚田と若者。緑が支配する千枚田を見下ろす若者二人のポーズはシンメトリカル。発想がユニーク、演出とはいえ収まりの良い作品。新鮮な感覚を評価したい。

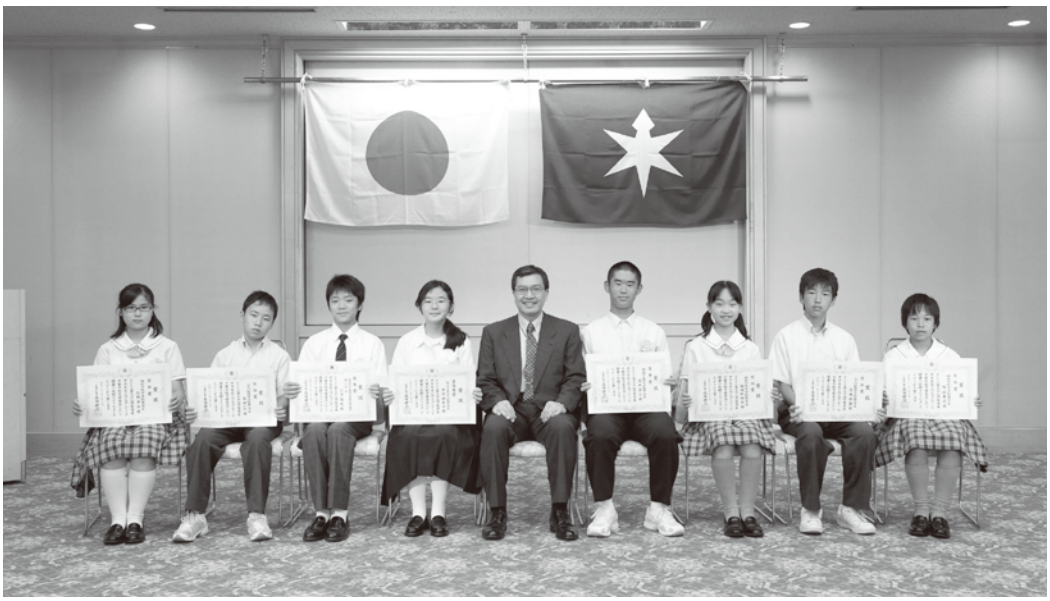
〈おかあさん　お玉じゃくしみつけたよ。〉

撮影場所：君津市小櫃公民館前　撮影者：常住幸太郎

田植えを終えたばかりの田に早くも蛙の子育てが始まり、母子がお玉じゃくしを発見したようだ。水田を区切る斜線が奥行感を描き出し、初夏の農の風景として印象的だ。

「水の週間」中学生 水の作文コンクール入賞作品

千葉県総合企画部　水政課



「水の日」（８月１日）及び「水の週間」（８月１日～７日）は、水の貴重さや水資源開発の重要性について国民の関心と理解を深めるため、昭和５２年に閣議了解で制定され、毎年この期間に水に関する各種の啓発行事が全国的に行われています。その一環として、国及び都道府県の共催により、次代を担う中学生を対象として「水について考える」をテーマに「全日本中学生水の作文コンクール」が実施されており、今年で３１回目となります。

千葉県は広い県土と豊かな自然に恵まれているものの、県内河川の流れは短く、流域面積も小さいことなどから、水資源に関しては決して恵まれているとは言えません。このため、必要な水の約３分の２を利根川に依存しており、さらに利根川上流ダムの完成にはまだ時間を要するため、十分な水が安定的に確保されているとは言えない状況です。

そこで県では、利根川上流の水源地域の方々の理解や協力をいただきながら、水資源施設の建設を促進し、安定的な水の確保を図るとともに、雨水や汚水処理水の再利用等、水を大切にする節水型社会を目指しているところです。

今回のコンクールには、県内の中学校９校から総数６４３編の応募があり、その中から、特に優れた作品８編を千葉県地方審査会により選定し、去る８月３日に表彰式を行いました。

ここに、最優秀賞及び優秀賞の作品３編を、原文のまま御紹介します。

なお、最優秀賞の吉次由美子さんの作品は、国の中央審査においても入選されました。

最優秀賞

松戸市立第五中学校３年
吉次 由美子

「節水、できるところから始めよう」

新聞のページをめくると、「きれいな水をください」という見出しと共に、うつろな目をした子供が、じっとこちらを見ている写真が私の目に飛び込んできた。

子供ではどうすることもできない無力感を私に訴えかけているような表情は、強烈な印象として、私の心に残った。

このユニセフが行った意見広告の紙面は、「世界では、未だに安全な飲み水が手に入らず、汚れた水しか飲めない子供たちが四億人以上いる」ことや、「汚れた水と不衛生な環境が原因で下痢性の疾患にかかり、毎年百五十万人もの子供の命が奪われている」ことを私に伝えてくれた。

また、「汚れた水が原因で病気になり、学校を休まなければならず、子供たちの教育の機会が奪われるなど、成長にも大きな影響を与えている」こともわかった。

ユニセフでは、このような水の問題を解決するために、井戸の設置や衛生施設の改善に取り組んではいるが、未だ問題解決の兆しは見えていない。安全な水を広く供給するということは、一朝一夕にはいかないのだ。

翻って、私たちが暮らす日本の社会はどうだろうか。子供でも蛇口をひねればいつでもきれいで安全な水が、好きなだけ出てくる。このことを誰も疑う余地がない程、私たちの社会では水の利用環境は整い、安全な水の供給システムは休む間もなく機能している。

しかし、昨年私が地球と他の惑星の違いについて調べていた時、「水の惑星」といわれる地球も、近年、深刻な水不足という事態に陥っていることを知った。

「水の惑星で水不足？」こんな冗談のように聞こえてしまう状況を招く理由は何だろう。世界の水の事情を調べてみると、砂漠などの地域の国は水資源が乏しく、熱帯雨林などは極端に多いなど、水資源の偏りが挙げられる。

また、日本でも河川の水量の多い時の水を少ない時に利用することができない。その他、水の供給システムが構築されていない国もあるなど、水の惑星といわれる地球の水も、決して公平に配分されている訳ではないのだ。

では、私が住んでいる千葉県の水資源の状況はどうだろうか。千葉県は四方を海に囲まれ、その海岸線の長さは、五百キロメートル以上にもおよぶ。そのせいか、水資源は豊かであると、私は思い込んでいた。

しかし、調べていくと、千葉県はむしろ、水資源の確保に苦労していることがわかった。六百万人もの人々が暮らす千葉県。この千葉県の主な水源は、利根川と江戸川水系だが、千葉県の規模を考えると、これらの水源では充分とはいえないのが現状だ。

川から取水し、二百三項目にも及ぶ水質検査や工程を経て浄化される私たち千葉の水。きれいで安全な水は、その後、地域の浄水場から各家庭に配水される。

私たちの生活に、直接影響を及ぼす「命の水」を安定して供給することは、そう簡単なことではない。

しかし、毎日利用している私たちは、そのことを理解して、水を大切に使っているだろうか。もしも、このままの状態で消費していると、いずれは水不足を招き、ダムの水も枯渇してしまう時がくるのだろうか。

私は今まで、日常の暮らしの中でも節水を心掛けてきたが、この調べを通して、その思いが、より一層強くなった。

だが、日々の生活の中で節水を意識することは、容易なことではない。だからこそ、例え一滴でもわずかなものと思わず、日常の暮らしの中で節水に努めるように心掛けることが一番大切なことだと、私は思う。

また、各家庭で積極的に雨水などを利用し、プランターや植木の水遣り、夏の「打ち水」に使えばいい。節水は意識すれば必ずできる。さぁ、できるところから始めよう。

優秀賞

館山市立第一中学校２年
石井 貴文

「我が家の断水デー」

水は、私たち人間が生活していく上でとても大切なものである。文明の進んだ現代において、水は日常生活及び都市活動を支える重要な資源といえるだろう。

実は先日、自宅のトイレの水道がこわれた。水がとまらず出っぱなしになってしまったのだ。トイレの水栓元をさがしたがみつからず、仕方がないので、家全体の元栓を止めることになった。その日は日曜で修理ができず、丸一日断水することになってしまった。たまたまお風呂に水を張っていたため、トイレにはその水を利用できた。しかし、少量では汚水は充分に流れず、使用するたびにたらいに手おけ３杯分の水を汲んでトイレまで運び、流さなければならなくなりとても大変だった。

歯みがきはペットボトルの水で行い、食器を洗えないので、市販のお弁当やパンを食べてしのいだ。とても味気ない食事となってしまった。ウエットティッシュで体を拭き、まるで災害時のようで情けない気持ちになってきた。

しかも母が「水のありがたみが身にしみたわね。これを機会に月に一度、断水デーをつくりましょう。」と勝手に決めてしまった。ぼくは「えーっ。そんなのやりたくない。」とうっとうしく感じ、二階へ逃げこんだ。

安全な飲料水を手に入れることが可能な人の割合はアフリカが６２％に対し、日本は、１００％と驚異的な数値である。河川に恵まれた日本において、水は十分すぎるほど豊富に存在しているかに思える。しかし、地球全体からみたとき、水の惑星といわれる地球においてでも、実はその水の９７．５％は海水であり、安全に使用できる水はわずか０．０１％しかないのだという。ある調査によると、河川の汚れの６０～７０％は生活排水によるもので、その汚水を浄化するためには３００倍あまりの水が必要になるのだそうだ。つまり、私たちが水を利用し、汚すことで安全な水はどんどん奪われていく。

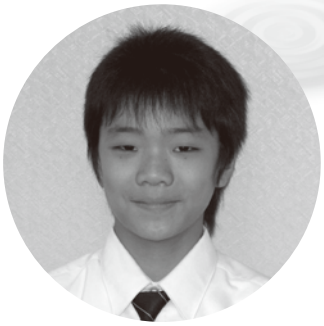
今現在、私たちは安全な水をたやすく手に入れることができる環境にいる。しかし、それに甘んじることなく水を大切にしていかなければ、将来の保障はなくなるのだ。

今回の断水さわぎで、水が使えなくなることの危機感を感じ、蛇口をひねると安全な水が出てくることのありがたさを痛感した。そしてあまり気が乗らなかった断水デーも、月に一度ぐらいならと挑戦してみようかという気持ちになってきた。

豊富そうにみえて、実は限りのある水資源。それを守るためには、節水や生活排水を減らす努力が必要である。そして健全な水循環をスムーズに行えるための環境づくりについてより知識を深めるなど、一人一人が水を大切にするという意識を高める努力をしていかなければならないと思った。

優秀賞

東海大学付属
浦安高等学校中等部１年
小澤 竣哉



「無くてはならない水」

先日ぼくの祖母が体調をくずし手術をした。手術の前日から手術の翌日の朝まで飲食を禁止されていた。手術が終わり麻すいから覚めた祖母に「手術の傷口が痛むか」と、ぼくは問いかけると「痛みはもちろん有るけど、それより何よりお水が飲みたい」とくり返し言っていた。退院した後も「手術より、お水が飲めないのが一番辛かった」と言っていた。この出来事をきっかけに、ぼくは人間は水が無いと生きて行けないのだと、強く実感した。

人間をはじめ生物にとって水は一番大切だといっても過言ではない。生活用ではもちろんのこと、農業用でも大量の水が必要だ。一トンの穀物を生産するのに約十トンの水が必要になると聞いたことがある。他にも工業用の水も大量に必要だ。このように、水は生きていくうえで欠くことの出来ない大切なものなのだ。しかし、最近「水不足」というおそろしい言葉をよく耳にする。その原因は地球温暖化や、昔にくらべ生活の高度化とともに一人当たりの水の消費量が増加し、そして更に人口も増加しているので大量の水を消費しているからだ。日本やヨーロッパでは一人当たり一日二百リットル、アメリカでは一人当たり一日三百五十リットル～九百五十リットルもの量を使用しているらしい。

ぼくは水不足を解決する方法を考えてみた。まずは日常生活で簡単に出来る事からあげてみると「歯をみがく時や食器を洗う時などこまめに水を止める。トイレの水を流す時は「大」「小」のレバーを使い分ける。お風呂に貯めたお湯は洗濯機や拭きそうじに使う」などが考えられる。このようにささいな事でも全世界の一人一人が実行することにより、そうとうな量のむだを省けるのではないだろうか。しかし、ぼくを含めた先進国特に日本では「水道の蛇口をひねると飲むことの出来る綺麗な水が出てくる」このあたり前の現実に、あぐらをかいているような気がしてならない。

その他の解決策はどうだろうか。木の伐採を減らす事で砂漠化を防ぎ、雨の地域を増やせるのではないだろうか。他にも、工業用水を循環利用するのはどうだろうか。もちろん地球温暖化対策は必要不可欠だ。そしてぼくが考える一番の解決法は、地球上の七割をしめる海水を利用することは出来ないのだろうか、ということだ。そう考えたぼくは少し調べてみた。

福岡県にある、福岡地区水道企業団、海水淡水化施設「まみずピア」は、平成十七年に約四百十億円をかけて建設された、日量五万立方メートルの淡水を作れるらしい。五万立方メートルの淡水を作るには、海水を約十万立方メートル使用するそうだ。海水を利用するメリットは、季節や気象条件に左右されない事や、ダムなどの開発にくらべ工期が短くて済む事だ。唯一のデメリットは造水コストが、一立方メートル当たり約二百十円かかるため陸水より高めになるらしい。ぼくはコストはかかるけれど、水不足を解決するにはこの海水を利用することが一番だと思う。開発を更に進める事により、コストを下げられるだろうし、ぼくは調べながら少し安心した。

何度も述べているように「人間をはじめ生物にとって欠くことのできない水」この大事な水を、不足する事無く、この先もずっと使用して行きたい。だからこそ一人一人が水に対して関心の気持ちを忘れてはいけない。そしてぼくは水不足の解決策のはじめの一歩として、節水していく事をここに誓おう。

図書斡旋のお知らせ

土地改良区の皆様へ

滞納処分や組織運営のことでおこまりではありませんか。本会では全国水土里ネットで発刊している「土地改良区が行う滞納処分の手引き」「土地改良区組織運営の手引き」を斡旋しております。最近問題になっている滞納処分について手続き等がわかりやすく解説されております。ぜひ、購入をご検討下さい。

書籍名	定価（税込み）
「土地改良区が行う滞納処分の手引き」	2,１００円
「土地改良区組織運営の手引き」	2,１００円

※送料は別途にかかります。

購入をご希望の方は水土里ネットちば　管理指導部
TEL.０４３－２４１－７７４２　FAX.０４３－２４８－２５２１までお問い合わせ下さい。

平成２２年度

千葉県農業大学校の学生募集

一般入試

農業のスペシャリストを目指す、
千葉県立の農業大学校の学生を募集します。

●募集人員……　Ａ日程……農学科 約３０名　研究科 約１０名
Ｂ日程……農学科 約１０名　研究科 若干名

●受験資格……　農学科：高等学校を卒業した者又は平成２２年３月卒業見込みの者
研究科：都道府県の農業大学校の農学科等を卒業した者
又は平成２２年３月卒業見込みの者

●選考期日……　Ａ日程……平成２２年１月１２日（火）
Ｂ日程……平成２２年３月２日（火）

●選考場所……　千葉県農業大学校

●選考方法……　農学科：国語、農業科学基礎・生物☒・化学☒から１科目、面接
研究科：作物学、園芸学・畜産学・農業経営学から２科目、面接

●願書受付……　Ａ日程……平成２１年１２月２１日（月）～平成２２年１月５日（火）
Ｂ日程……平成２２年２月１２日（金）～平成２２年２月２３日（火）

※土、日曜日、祝祭日及び平成２１年１２月２９日～平成２２年１月３日を除く

●合格発表……　Ａ日程……平成２２年１月２１日（木）
Ｂ日程……平成２２年３月１０日（水）

●申込み・問合せ…　千葉県農業大学校
〒２８３-０００１　千葉県東金市家之子１０５９
ＴＥＬ．０４７５（５２）５１２１　ＦＡＸ．０４７５（５４）０６３０
ホームページ：http://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/

【各　賞】

●最優秀賞（千葉県知事賞） 1点（賞状・副賞）

- ●千葉県土連会長賞　1点（賞状・副賞）
- ●特別賞　2点（賞状・副賞）
- ●金　賞　1点（賞状・副賞）
- ●銀　賞　2点（賞状・副賞）
- ●銅　賞　3点（賞状・副賞）
- ●佳　作　数点（賞状・副賞）
- ●参加賞　応募者全員に粗品進呈

【応募要領】

■応募資格

千葉県内在住または在勤の方

■応募規定

●撮影場所　千葉県内

●応募作品

・カラー写真の単写真に限ります。
・応募は未発表のもので１人３作品までとします。
・写真サイズは四ツ切り（ワイド可）とします。
・デジタルカメラで撮影した作品の場合、A4サイスでも可（デジタル写真の場合は撮影したままのもので、加工・調整した作品は応募できません。）
・人物が被写体の場合は、応募者の責任により肖像権に触れないようにして下さい。
・応募の際は応募票に記入し、応募作品の裏に貼り付けて下さい。（コピー可）

●入賞作品

・入賞作品１人１点までとします。
・入賞作品の著作権は撮影者に帰属しますが、展示会や広報などのためのポスター・チラシ・ホームページ等の使用権は主催者に帰属します。
・入賞作品は原版を後日提出してもらいます。（デジタルカメラの場合はオリジナルデータをCD-Rなどにコピーしたもの）

※注意事項

・応募作品は原則として返却いたしません。返却を希望する場合は、送料相当分の切手と封筒を同封して下さい。
・応募作品の取扱いには十分注意いたしますが、汚れ、破損など、万一の事故に対する責任は負いかねますのでご了承下さい。

【応募締切】

平成２２年６月３０日
（当日消印有効）

【審 査 員】

写真家　鍔山英次氏
（日本写真家協会・日本写真協会理事・
日本舞台写真家協会会長・日本記者クラブ）

情報誌「水土里ネットちば」の編集委員

【入賞発表】

入賞者に直接通知するほか、
情報誌「水土里ネットちば」（秋号）
に掲載予定

【表 彰 式】

平成２２年８月予定（銅賞以上を対象）

第15回：最優秀賞

第15回：千葉県土連会長賞

応募先・お問い合わせ先

水土里ネット千葉（千葉県土地改良事業団体連合会）管理指導部
〒261-0002　千葉市美浜区新港２４９－５　TEL　043-241-6639（直通）

水土里ネットちば　285号（平成21年11月16日発行）

みどり
水土里ネット

発　行
水土里ネット千葉（千葉県土地改良事業団体連合会）
〒261-0002　千葉市美浜区新港249番地5
TEL.043-241-1711（代）／FAX.043-248-2563（代）

印　刷
株式会社ニッセイアド
〒264-0026　千葉市若葉区西都賀4-18-3
TEL.043-206-7752／FAX.043-206-7753